

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在掲げられている理念はホーム当初に作り上げたもので、その人らしく、心豊かに、安心と安らぎのある暮らしを理念とし、住み慣れた事で地域との共生をめざした内容となっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に説明を行い、日常的にケアを通じて方針に合わない時は申し送りや全体会議の中で話し合いをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方を対象とした内覧会を取り入れ、その時にパンフレットを配布し説明を行っている。また家族の面会時にはお互いに話が出来るように時間をつくるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時やごみ出しなど近隣者には気軽に挨拶を行い、いつでも立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	○	近隣者の来訪もあり、お互いに気軽な会話もできている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	各職員がそれぞれの関係作りに努め、自治会等などの地域活動への参加も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が見学や相談に来られた時は、きちんと話を聞くように心がけ、少しでも納得して喜んでもらえるような対応を心がけている。またきちんと対応ができない時は、名前等を聞いて後で連絡をして対応に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容、改善内容等は朝礼時に報告を行い、全員に伝わるように申し送りノートに記入し、全員が理解してサービス改善とサービスの向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を報告、意見等があった時は、朝礼時や全体会議にて意見交換を行い、少しでもサービスの向上につながるよう努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設運営上の課題、利用者のサービスの質の向上等について、スタッフは市町村の担当者と接点を持ち積極的な連携の姿勢が保たれている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等の参加、報告を通じて権利擁護に関する制度を理解し、必要に応じて家族等に支援できるように努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で利用者の理解力低下があることを受け止めて、口調、言葉使い、声のトーン等に注意を払い、職員間で気づいた時点でお互いに注意し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族の不安や心配事などきちんと聞いて説明を行い、理解して納得された上で契約を結んでいる。解約はまだ行っていない。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話時間を多く持つことで、日ごろより何でも話せる雰囲気はできている。また家族の面会時に報告、相談をすることで、家族とも気軽に会話ができています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に健康状態や近況報告をしている。毎月の預かり金の使途明細の報告と、定期的な{苑だより}の中で皆さんの生活状況や苑生活の状況を報告している。	○ 家族の面会時に気軽に何でも話せるような機会を設け、不安など共有しあうことでお互いの信頼関係もできていると思う。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議、家族会議時に出席された家族の方から、意見や希望を聞けるように時間を設けている。また玄関には意見箱を置いている。	○ 家族が何でも気さくに相談できるような信頼関係を築いている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案等は出来るだけ取り入れて、全体で話し合いをすることを大切にしている。	○ 意見や提案はまず受け入れて実施する。その後の報告、連絡より反省点や気づき、改善点はその都度、話し合いができています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員全員が利用者の状況を把握できているので、皆で意見交換をしながら協力して行うことができています。	○ 状況変化など、何時もと違うと思ったらまず報告をして早期発見に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職があっても空白を感じさせない、馴染みの関係を続けることが重要と心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修内容等は一通り目を通し職員に参加を促すことで、職員も快く研修受講の機会を確保できている。</p>	○	研修を通して業務の中に取り入れて活用している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年に数回は地域の同業者との交流会を開き、利用者や職員同士の交流を深め、情報の交換など行っている。</p>	○	相互訪問や花見、外食などで交流を深めている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎年季節の折、食事会や勤務に支障のない範囲で日帰り旅行や、班別での2～3日の慰安旅行など実施している。また日ごろの休憩時間は別室で自由な時間を過ごす工夫をしている。</p>	○	職員間の信頼関係もできて会話も多く、お互いの意見交換など上手くいっている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の情報収集にも全員で報告しあい、検討し、直ぐ取り入れてその都度報告、相談している。出来る限り職員の意見を聞いて話し合いの場をもつよう心がけている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談時に利用者の希望、思いを把握することに努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けたときはきちんと話を聞き入れて、対応することで安心して話をして頂く。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容により、その方にとって一番必要なサービス支援を見極めて対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所的な体制で家族とともに来所して来られ、食事の時間、レクの時間を楽しんでもらい、雰囲気馴染み様に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関わりの中では、尊厳の念をもって、共同生活をする上でたくさん学ぶことがあるので、共に助け合いながら過ごして生きたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは利用者がリビングにおられる時、居室におられるとき等いろいろな場面を把握し、共に過ごすようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時にはできるだけ本人と家族も一緒に話をしたり、時には家族だけでの話し合いの時間をつくっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会時には楽しい時間を過ごせるように、居室に案内して自由にしてもらう。以前の生活習慣は出来るだけ途切れないように支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	比較的元気な利用者が面倒を見たり、利用者同士の助け合いや気持ちの支えあいなど自主的に見られ馴染みの関係が出来てきている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された後も家庭を訪問したり、その後家族からの相談などの支援にあたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族と共に生活習慣や本人や家族の希望等を聞き入れ、意向の把握に努めている。困難な場合でもできるだけ否定はせず、様子観察をして検討をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集と家族の面会時や日々のコミュニケーションの中から把握するように努めている。	○	お互いに信頼関係もできてきて、家族からの詳しい情報収集もできてきた。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全体で個々の状態や現状を観察し、情報交換や申し送り等で総合的に把握することが出来る。	○	心身状態の変化があるときは、その都度話し合いにより職員全体が把握できるように記録している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に介護計画の説明を行い、家族の希望を取り入れ職員間での情報収集を行い介護計画書を作成している。	○」	家族の面会時には、ケア内容の状況を報告したりする中で、新たな情報をえることができる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は実施期間を記入して状況の変化に応じて変更をしている。	○	家族の面会時の会話の中では、できるだけ現状維持ができるようにとの家族の希望があり、無理な計画作成はしていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にきずきや意見を書き、全員がチェックして確認を行う。また業務中の気づきはその時話すことで情報を共有し皆で情報交換ができて、それを計画の中に取り入れる努力をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応できないときの通院支援等を行っている。	○	通院後の結果報告とその後の対応についての相談を行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向や必要性に応じて、地域資源の活用を図っている。	○	利用者同伴で図書館より雑誌、ビデオ、紙芝居などを利用したり地域のボランティアのサービスも利用している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーやサービス事業者との話し合いのもとで、他のサービス利用の支援を行う。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される以前のかかりつけ医への受診支援や、協力医療機関への受診体制を行っている。	○	個々のかかりつけ医への毎月の定期受診を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症であることを伝え、よく協力していただける医療機関にお願いしている。また声かけの配慮もあり、異常時には直ぐ対応していただいている。	○	医師との信頼関係もできて、職員からの質問や相談などにも快く聞き入れてもらいケアの中にも取り入れている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職、訪問看護師と連携をとりながら利用者の健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と家族も含め、退院後の対応についても蜜に話し合いをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化指針の関わる同意書」に署名、捺印をもらっている。本人、家族のかかりつけの医療機関との話し合いも行い、方針の共有もできている。	○	家族が遠慮せず相談のできる話し合いの時間を設けている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医、訪問看護師による協力体制により利用者が可能な限り安定した生活が維持できるよう努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分な話し合いのもとで情報交換を行い、支援をしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>利用者の表情や様子を観察しながら言葉かけをおこなっている。言葉使いや声のトーンなどには注意を払っている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p> <p>出来る限り本人の訴えを聞き入れるように努力して、本人の納得の出来るような関わり方をして、本人の決定が出来るように支援している。</p>	○	状態を見ながら安心して話ができるような雰囲気をつくりながら自己の決定ができるようにしている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>ある程度の決まりはあるが、危険や他者に迷惑にならない範囲内では融通を利かし、その時々状況や様子に応じて声かけをしながら判断して選択を支援する。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>基本的に本人の好みの服装や髪型を大切にしている。いつも違和感がある時はさり気なく声をかけて着替えてもらう。行き付けの店は家族の協力と職員で送迎をして満足してもらっている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>献立は当日の話し合いで決定し、利用者と一緒に買い物をしている。準備では安全な手作業や、配膳、つぎわけ、茶碗拭き、収納等は積極的に利用者が行っている。</p>	○	同一のテーブルで菜園で採れた野菜を揃えたり、皮むきなど仲良く会話をしながら食事の準備をしている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>喫煙者に対しては本人、家族に相談し同意をえて、タバコ、ライターは事務所で保管。要求時に安全な喫煙場所でライターでの点火を確認し、ライターを預かっている。</p>	○	家族の面会時に持参されるもので、生ものや賞味期限の短いものは家族に相談して職員で預かり、要求時に手渡すようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、早めに声かけや歩行不安定な方は、誘導、見守りを行いできるだけ失敗を少なくして自力排泄ができるようにしている。	○	早めに声かけや誘導をすることで、失敗が少なくパットの使用量や取り外しも可能である。また日中は布パンで夜間はリハパンに交換して快適な排泄を促している利用者もある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を重視し無理をしないで順番をかえたりして間をおいている。入浴に関してはできるだけ自立を促し、見守りと言葉かけを多くしている。	○	入浴をするまでは表情が優れない方でも、湯に浸りほっとされた時に言葉かけをすることで入浴して気持ちいいと言葉がきかれる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠剤は使用せず、できるだけ日中の活動を活発に行い生活リズムを整えたり、体調を考慮しながら、夜間良眠を図っている。	○	散歩や廊下歩行、レクリエーションなどの活動のあと居室で仮眠をしたり自分でリズムを整えられるようになっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活習慣を活かし、好きな手伝いは積極的に、自然な形で自分の出来る範囲内での手伝いをしてくださる。	○	洗濯物干し、洗濯物たたみ、茶碗ふき、収納、モップかけなどは積極的に毎日行なわれている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の了解の下、職員が管理をしている。本人の希望があれば出来る限り希望にそって、一緒に買い物に行き、レジにて職員が見守りを行なっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時節の行事、苑外散歩、買い物、外食、外出など出来るだけ外に出る機会を多く作っている。	○	散歩、外出は状況を見て一緒に出かけ、買い物は同行し、品定めやレジ並びもスタッフと行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と相談の上で、自宅や法事、墓参りなど家族と一緒に外出できるように援助している。また家族に負担にならないように職員と外出をしている。テレビ、新聞等で情報収集し、毎月ドライブや見学等の外出をしている。	○	家族の面会時に職員と一緒に散歩に出かけたり、ボランティアの方たちと苑外行事などの外出をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に負担をかけないように時間を把握して、本人の希望に応じている。遠方の家族には電話連絡で本人との会話を楽しんでもらっている。はがきは本人にかいてもらい投函している。	○	遠方の家族より本人様への電話もあり、自由に会話をされその後職員と代わり質問などの対応をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に立ち寄れるように訪問時には明るく対応し、ゆったりとした時間を過ごせるように配慮している。また家族の宿泊用に予備室や寝具を準備している。	○	どなたでも早目に連絡をしてもらい、ゆっくり過ごしてもらえるように準備をしている。お盆と正月に一週間ほど娘さん親子の宿泊があり、特にお孫さんが来られるのを他の利用者の方も楽しみにしておられる。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけることなく、いつでも出入りができるように開放している。また利用者の行動は日々把握しながら所在確認をしている。	○	外出願望の方もあり特に所在確認には配慮して、職員間での居場所確認の声かけを行なっている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの行動パターンを把握すること、居室、トイレ、洗面所、リビング等での所在確認と職員間の声かけを重視している。	○	外出願望の方もあり特に所在確認には配慮して、職員間での居場所確認の声かけを行なっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は職員の目が届き、利用者の目に触れない場所に保管して、台所の包丁、洗剤等は見えないところで保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	余裕を持って利用者に関わる時間を多く作り、一人ひとりに目を向けて、事故防止に努めている。また事故があれば事故後、早急に話し合い、ヒヤリハットに記入し再発防止に努めている。その後の経過、状況を観察し、職員全体でケアの統一を図っている。	○	職員間の申し送りノートを作り、確認後のサインをして統一をはかっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、直ぐ見れるところにおいている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、災害についての認識はスタッフ全員が共有されており、地域の方々からの協力については運営推進会議においてもお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の面会時に個人的に身体、健康状態を伝えている。リスク対応時は家族に連絡をして状況や状態を説明して対策を話し合っている。	○	家族との信頼関係もできているようで、経過観察の状況など説明を行なうことで、安心されている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調異変に気づいたら、直ぐ当日の職員で情報を共有して緊急時には受診と家族に連絡をする。受診同行の職員が家族に結果報告し、受診記録に記入して全体で把握している。	○	面会時に健康状態を報告しているため、事前に家族より緊急時の受診の了解をえている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や注意事項は個人ファイルに綴っている。当日の服薬はチェック表で確認し、服薬変更時はその都度申し送りノートに記入し全員で確認をしている。	○	看護職による配薬の準備がなされ変更時には記録を残し全員で確認をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の朝礼時に排便チェックの確認、報告を行い、食物繊維の摂取や散歩、水分摂取時に牛乳、ヨーグルトなど提供して排便を促している。	○	主治医の指示で排便コントロールの方もあり、きちんと確認を行い排便のない時は指示どおり服薬にてコントロールを行なっている。その他は牛乳やヨーグルトなどの摂取にて排便がある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助の必要な人は、できるだけ自立できるよう1つ1つ言葉かけを行い自立を促して、出来ない部分は介助する。	○	義歯は本人さん洗われたあと、職員が再度洗って保管する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のケアチェック表にその都度記入している。彩りや盛り付けなど目でも楽しめて、食べやすいように荒刻みなどで摂取量につながるよう工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成して流水での手洗いや手指消毒を励行することで予防している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	出来るだけ当日の新鮮なものを使用し、毎日冷蔵庫の掃除と賞味期限をチェックしている。調理器具等はアルコールや漂白剤で消毒をして安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の家庭的な雰囲気を壊さないように、玄関周りには季節感のある花や植木鉢を置き、玄関のネームプレートも小さめにして近隣との違和感のないように、気軽に出入りが出来るように工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は一般的な家庭のものを利用して季節に応じた小物で変化をつけている。トイレや廊下は光センサーを利用して照明を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、またテーブルの椅子を利用して個々に思い思いに過ごされている。また利用者同士でのお互いの部屋を行き来して過ごされたりもしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に家族と本人様でよく話し合いをなされ決定される。使い慣れたもの他大切な物は持ち込んでもらい自宅と変わらないように過ごされるように工夫をしている。	○	入所後、家族からのプレゼントの花の鉢物や置物などは本人さんが気に入るように飾っておられる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し温度確認をして全体に大きな窓を使用している為換気は充分に行っている。室温調整は利用者の状況を見ながらこまめに行っている。	○	台所は常に換気扇を回し、室内はこまめに換気をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所には大きめの文字で表示をしている。廊下、トイレ、浴室には手すりをつけて、安全にできる限り自力で生活が送れるように工夫をしている。	○	危険と思われるものはできるだけ排除して安全な環境を作っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各場所には大きめの表示をしている。廊下、トイレには照明のセンサーをつけている。入所時には衣類、備品はチェックシートに記入し必ず個々に名前を記入している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	好天気の際はベランダに出て洗濯物を干したり、日光浴をしたり、花壇を楽しんでもらう。花や、家庭菜園での野菜の水やりや収穫の楽しみなどにも生かしている。	○	季節に応じて野菜の収穫を行い、季節感を感じてもらおうようにしている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

業務の中でそのときずいた事は、できるだけその日のうちに口頭で報告や記録に残して、朝礼時に話し合いその結果を申し送りノートに記載して、全員が確認することでケアの統一を図る努力をしている。